地域 Local News

松本

鉄道模型大会で好成績

松本秀峰鉄道部 2部門挑戦しそれぞれ受賞



松本秀峰中等教育学校(松本市)の鉄道部(15人)は、8月に東京で開かれた「第18回全国高校鉄道模型コンテスト」の2部門で好成績を収めた。このうち畳1枚分のスペースにジオラマ付きの鉄道模型コースを作り、完成度や表現力を競う「一畳レイアウト部門」では、2位に当たる優秀賞を受けた。(衛藤美緒)

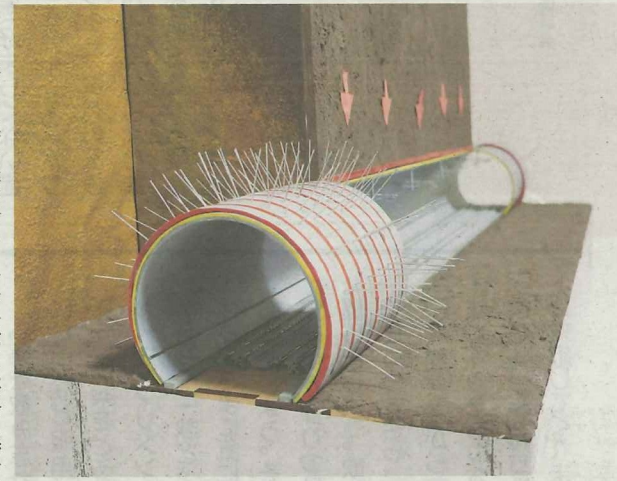
同部門は今回で終了するため、初挑戦の同部はラストチャンスに長野・群馬県境の碓氷峠をテーマに制作した「峠越え」を出品。長野新幹線(現北陸新幹線)の開業と同時に廃線となったJR信越本線の軽井沢―横川間を、古い写真や映像を手掛かりに再現し、新碓氷川橋梁(きょうりょう)には初めて3Dプリンターを用いた。

実景では見られないアングルから横川の街並みを望むようにするなど、「模型だからこそできる景色」を追求。会場では往時を知る来場者から「懐かしい」という声が相次いだという。

規格サイズの線路付きボードにジオラマを制作する「モジュール部門」には、北陸新幹線の飯山トンネルを題材とした「難関突破」を出品。ベストリアル情景賞とベストクオリティ賞を受賞した。

トンネル掘削に用いられる代表的なNATM工法と、飯山特有の地質に対応した多重支保工法を模型化。塩化ビニール管やロックボルトをデフォルメし、複雑な土木技術を視覚的に伝えた。

「2部門に挑戦したい」という部員たちに、顧問の長陸也教諭は「モジュール部門も前年度以上のクオリティーとすること」を条件に参加を認めた。コンテストまでに2作品を仕上げるのが精いっぱいで、受賞は半ば諦めていたという部員たちだが「模型でしか見られない、かつての風景をジオラマに収めたことを評価していただいたと思う。課題はスケジューリング」と三浦光平部長(5年)。引退した5年生からバトンを受け継いだ1~4年生は、今回の経験を糧に次の目標に燃えている。



モジュール部門で2賞を受けた「難関突破」

一畳レイアウト部門で優秀賞の「峠越え」と制作の中心となった5年生部員